

次期「彦根市子ども・若者プラン」策定に係る調査結果の概要

1. 就学前児童調査・小学生児童調査

◎平日定期的に利用している教育・保育の事業【P31-32、37 就学前：問 16, 16-1, 17】

<利用状況>

定期的な教育・保育事業について「利用している」が 68.1%で、前回調査より 4.7 ポイント増加しています。平日に利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が 62.9%と最も多く、次いで、「幼稚園」が 20.9%、「認定こども園」が 9.3%となっています。幼稚園が 9.7 ポイント減少したのに対し、認定こども園が 9.1 ポイント増加しています。

<利用意向>

平日の教育・保育事業として定期的にご利用したい事業は、「認可保育所」が 65.7%と最も多く、次いで、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が 40.5%、「認定こども園」が 32.0%となっています。幼稚園が 4.5 ポイント減少したのに対し、認定こども園が 11.7 ポイント、認可保育所が 4.1 ポイント増加しています。

◎地域子育て支援拠点事業【P43-44 就学前：問 18, 19】

<利用状況>

地域子育て支援拠点事業の利用状況については、26.7%の方が利用しています。前回調査に比べ、5.4 ポイント増加しています。

<利用意向>

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 69.0%と最も多くなっています。

◎病気の際の対応について【P51-52 就学前：問 23-1, 2 / 小学生：問 22-1, 2】

<病気やけがの際に行った対処方法>

病気やけがで通常の事業が利用できなかったことが「あった」方が、この 1 年間に行った対処の方法は、就学前で「母親が仕事を休んだ」が 56.5%と最も多く、前回調査に比べて 11.4 ポイント減少しています。小学生でも「母親が仕事を休んだ」が 65.7%と最も多く、前回調査に比べて 14.5 ポイント増加しています。

<病児・病後児保育の利用意向>

父親または母親が休んだとお答えの方にたずねたところ、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は就学前で 35.4%、小学生で 15.8%、「利用したいとは思わない」は就学前で 63.9%、小学生で 83.7%となっています。

◎放課後の過ごし方【P64 就学前：問 30, 31 / 小学生：問 7, 8】

<小学生低学年（1～3年生）の間>

希望する放課後の過ごし方は、「自宅」が、就学前で 52.5%、小学生では 69.0%と最も多くなっています。「放課後児童クラブ [学童保育]」は、就学前で 48.3%、小学生では 33.6%となっています。

<小学生高学年（4～6年生）の間>

希望する放課後の過ごし方は、「自宅」が、就学前で 63.6%、小学生では 76.7%と最も多くなっています。「放課後児童クラブ [学童保育]」は、就学前で 36.4%、小学生では 23.5%となっています。

◎子育てに関する不安や負担の有無【P69 就学前：問 34 / 小学生：問 25】

子育てに関する不安や負担については、「非常に不安や負担を感じる」と「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が就学前では 55.8%

で、前回調査に比べて3.6ポイント増加し、小学生では54.3%で、前回調査に比べて7ポイント増加しています。

◎仕事と子育てを両立させる上で大変なこと【P72 就学前：問36／小学生：問27】

仕事と子育てを両立させる上で大変なことについては、「自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になったとき、代わりに面倒をみる人がいない」が就学前で49.8%、小学生では42.3%と最も多くなっています。

◎彦根市の子育て環境について【P76 就学前：問41／小学生：問32】

彦根市の子育て環境は、就学前では「自然環境にめぐまれている」が41.1%と最も多く、小学生では「近所に子どもと同世代の遊び仲間がいる」が47.9%と最も多くなっています。

◎彦根市のこれからの子育て支援施策で期待すること【P78 就学前：問43／小学生：問34】

彦根市のこれからの子育て支援施策で期待することは、就学前では「子育てしやすい労働条件の整備等ワークライフバランスの実現」が57.7%と最も多く、小学生では「児童手当などの経済的な支援」が51.3%と最も多くなっています。

2. 若者の意識調査（19歳～30歳の市民用調査）

◎困りごとの内容【P109 問12-1】

悩みや心配ごと、困っていることが「ある」とお答えの方に、困っている内容についてたずねたところ、「自分の生き方や将来のこと」が51.7%と最も多く、次いで、「収入や生活費のこと」が41.7%となっています。

◎困りごとの相談相手【P110 問12-2】

悩みや心配ごと、困っていることが「ある」とお答えの方に、困っている内容について相談する相手についてたずねたところ、「友人」が39.2%と最も多く、次いで、「家族や親戚」が38.3%となっています。

◎若者を支援していくために必要だと思う相談体制【P111 問13】

若者を支援していくために必要だと思う相談体制については、「親身に聴いてくれる相談体制」が37.7%と最も多く、次いで、「無料で相談できる相談体制」が33.3%となっています。

◎地域活動や市民活動への参加の有無【P113 問15】

地域活動や市民活動に参加しているかについては、「どのような地域活動や市民活動があるのか知らない」が26.8%と最も多くなっています。

◎現在住んでいるところに住み続けたいか【P114 問15-4】

今後の居留意向については、「住んでいたい」が21.9%、「どちらでもよい」が35.5%、「移りたい」が16.9%となっています。

◎外出について【P115 問16】

ふだんどのくらい外出するかについては、「仕事や学校で休みの日以外は毎日外出する」が61.2%と最も多くなっています。必要最低限しか出かけない方は、合計で9.2%となっています。

◎仕事と家庭のバランス【 P124 問 17-1】

現在働いている方に、仕事と家庭のバランスに満足しているかをたずねたところ、「満足している」が 44.6%と最も多く、次いで、「もっと趣味やプライベートを優先したい」が 33.0%となっています。

◎子どもが欲しいか【 P126 問 18-1】

子どもが「いない」とお答えの方に、将来子どもは欲しいかたずねたところ、「欲しい」が 59.7%と最も多く、次いで、「パートナー次第なのでわからない」が 10.7%となっています。

◎子どもが欲しいと思わない理由【 P127 問 18-3】

子どもが欲しいと思わないとお答えの方に、その理由についてたずねたところ、「子育てのための経済的負担が大きそうだから」が 62.5%と最も多く、次いで、「自分の生活を大切にしたいから」、「子どもが好きでないから」がそれぞれ 43.8%となっています。

◎彦根市の子育て環境【 P128 問 19】

彦根市の子育て環境については、「自然環境にめぐまれている」が 27.3%と最も多く、次いで、「近所に同世代の遊び仲間がいる」が 13.7%、「子ども会などの地域活動が盛んである」が 12.0%となっています。

◎子ども・若者を対象とした相談・支援機関の認知度【 P134 問 24】

子ども・若者を対象とした相談・支援機関等を知っているかについては、「警察」が 43.7%と最も多く、次いで、「病院・診療所」が 38.8%、「ハローワーク・ジョブカフェなどの就労支援機関」が 35.0%となっています。

◎彦根市のこれからの若者支援について期待すること【 P136 問 25】

彦根市のこれからの若者支援について期待することは、「出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が 44.3%と最も多く、次いで、「安定して働きがいのある雇用の場づくりをしてほしい」が 39.9%、「残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしい」が 36.6%となっています。

3. 子どもの生活に関する調査

◎塾や習い事の状況【 P143 問 B2】

子どもの習い事の状況は、「野球・サッカー・水泳などのスポーツの習い事」が 40.1%と最も多く、次いで、「学習塾・進学塾」が 34.3%となっています。

◎経済的に負担が大きいと感じるもの【 P176 問 D5】

経済的に負担が大きいと感じるものについては、「学習塾や習い事にかかる費用」が 64.7%と最も多く、次いで、「医療費」が 31.6%となっています。

◎暮らしの状況【 P177 問 D6】

現在の暮らしの状況については、「ふつう」が 56.8%と最も多くなっています。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が 31.7%となっています。

◎受けたことのある手当や援助【 P178 問 E1】

受けたことのある手当や援助については、児童手当が 80.3%、就学援助が 9.8%、児童扶養手当が 7.6%、障害や難病の手当が 1.4%、公的年金（遺族年金・障害年金）が 1.4%となっています。

◎利用したいと思う支援【 P182 問 E2】

将来的に利用したいと思う支援については、「生活や就学のための経済的な補助・援助」が 44.2%と最も多く、次いで、「夏休み・冬休み・春休み期間中に子どもたちが自習できる場所」が 44.1%となっています。

◎必要としている支援【 P183 問 E3】

現在必要としていること、重要だと思う支援については、「子育てと仕事を両立できる環境づくり」が 46.5%と最も多く、次いで、「バスや電車などの公共交通機関の充実や費用の負担軽減」が 24.2%となっています。

4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

◎今後連携したい機関・団体【 P199】

今後連携したい機関・団体は、「福祉事務所」、「民間企業」がそれぞれ 36.4%と最も多く、次いで、「警察」、「小・中学校」、「高校」、「保護者会・PTA」、「ボランティア・NPO団体」、「彦根市発達支援センター」、「教育委員会」がそれぞれ 27.3%となっています。

5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

◎困難な家庭の状況【 P203 問 2-1】

困難な家庭の子どもや保護者と接することがあるとお答えの方に、困難な家庭の状況についてたずねたところ、「不登校（保育所・幼稚園においては、保護者が連れてこない）」が 53.7%と最も多く、次いで、「朝食を食べていない」が 48.8%、「授業料の支払いができない（保育料の支払いができない）」、「保護者と連絡がとれない」がそれぞれ 43.9%となっています。

◎困難な家庭の子どもや保護者に対する支援の課題【 P214 問 8】

困難な家庭の子どもや保護者に対する支援の課題については、「学校（園）でどこまでかかわる必要があるのかが、わからない」が 36.2%と最も多く、次いで、「教員（保育士等）が多忙で対応できない」が 32.8%、「保護者と連絡がとれない」が 20.7%となっています。

◎困難な家庭の子どもや保護者に対して必要な支援【 P215 問 9】

困難な家庭の子どもや保護者に対し必要な支援については、「生活や就学のための経済的補助・援助」が 51.7%と最も多く、次いで、「進路や生活などについてなんでも相談できる場所」が 46.6%、「関係機関による支援のネットワークの整備」が 44.8%となっています。

6. 子どもへの調査（学習支援児童生徒対象）

◎学習支援に来ることになったきっかけ【 P221 問 7】

学習支援に来ることになったきっかけについては、「親に教えてもらった」が 37.5%と最も多く、次いで、「この人から直接教えてもらった」が 20.8%、「市役所の人に教えてもらった」が 16.7%となっています。

◎学習支援に来ることで変化はあったか【 P222 問 9】

学習支援に来ることであった変化については、「学校の授業がわかるようになってきた」が 50.0%と最も多く、次いで、「勉強がたのしくなってきた」、「自分の進路がはっきりとしてきた」がそれぞれ 33.3%となっています。